

【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 理学療法学コース/理学療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
スポーツ医学	PSP43-002	選択	1	4	後期 (集中)
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
山本 泰宏	C304	yasuhiro_yamamoto		水曜 9:00~14:30	
授業の目的・概要	まずスポーツ選手の障害や外傷に対する関わりあい方の特殊性を理解する。次にスポーツと関連する障害や外傷の基本的知識を学び、その専門職としての対応方法を学ぶ。 生理学、解剖学、運動学、整形外科学、内科学の復習を行いながら、実際の診療現場で生じる問題などを実例を挙げて解説するので、教科書には載っていない実践的知識にも触れる。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・デベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	解剖学、生理学、内科学、整形外科学の知識が基本になるのでよく復習すること。				
教科書	指定しない				
参考書	授業の中で適宜紹介する				
外部教材	利用予定なし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	スポーツ選手に対する対応方法の特殊性を説明できる。			PT(1)、(2) OT(2)、(3)	
②	スポーツと関連が深い疾患や外傷の病態を説明できる。			PT(1)、(2) OT(2)、(3)	
③					
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	[オリエンテーション] スポーツ医学とは。スポーツ選手の特殊性を学ぶ。	講義	一般医療とスポーツ選手に対する医療を比較し、何が同じで何が違うのか復習すること。	3	
2	[スポーツ医学の実際] スポーツドクターの現場での経験を聞き、一般的医療とスポーツ選手の治療の違いを具体的に学ぶ。	講義	第1回授業の内容と比較して、一般的治療とアスリート治療の違いを確認する。	3	
3	[スポーツによる突然死：循環器障害] スポーツ活動中に生じる突然死を来す疾患について学ぶ。	講義	予習として、内科学の循環器疾患について復習しておくこと。	4	
4	[スポーツと環境：時差障害、熱中症など] 環境がスポーツ選手のパフォーマンスに与える影響を学ぶ。	講義	予習として、生理学の自律神経と内分泌について復習しておくこと。	4	
5	[スポーツによる外傷：脳震盪と脊髄損傷、捻挫、膝内障] 重大な後遺症を残す可能性があるスポーツ外傷と頻度の高いスポーツ外傷の病態とその対処方法を学ぶ。	講義	予習として、整形外科学の脊髄損傷、脊椎の疾患を復習しておくこと。	4	
6	[成長期のスポーツ障害：腰椎分離症、骨端症] 成人と成長期スポーツ障害の鑑別における注意点を学ぶ	講義	予習として、整形外科の脊椎の疾患、骨端症を復習しておくこと。	4	
7	[投球障害肩] スポーツ障害として頻度の高い投球障害肩の病態と対処方法を学ぶ。	講義	予習として、運動学の肩関節の運動、整形外科の腱板損傷を復習しておくこと。	4	
8	[鼠径部痛症候群] スポーツ障害として頻度の高い鼠径部痛症候群の病態と対処方法を学ぶ。	講義	予習として、解剖学、運動学の股関節の解剖と運動を復習しておくこと。	4	

【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 理学療法学コース/理学療法学科】

試	筆記試験を行う		
---	---------	--	--

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		100	0	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	100	0	0	0	0	100
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	0	0
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0

評価の方法			評価のポイント		フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点			
試験	①	✓	講義内容の理解度を評価する。		答案を返却する
	②	✓			
	③				
	④				
	⑤				
	⑥				
レポート	①				
	②				
	③				
	④				
	⑤				
	⑥				
成果発表	①				
	②				
	③				
	④				
	⑤				
	⑥				
ポートフォリオ	①				
	②				
	③				
	④				
	⑤				
	⑥				
その他	①				
	②				
	③				
	④				
	⑤				
	⑥				

備 考

他 担 当 教 員	予定なし
教員の実務経験	日本スポーツ協会公認スポーツドクター Wリーグ 山梨クイーンビーズ チームドクター
実践的授業の内容	できる限り担当教員の経験を示し、授業内容の理解度を高めることができるように工夫する。
そ の 他	研究室を訪れる際には、オフィスアワーであっても事前にチャットで在室を確認してください。